

(未来医学研究会のいま<特集II>) 「柳原操再生医療
研究支援寄附金」による本研究会支援のご報告先端
医療を先導する情報発信及び人材育成の支援

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-11-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 江上, 美芽 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00031724

「柳原操再生医療研究支援寄附金」による 本研究会支援のご報告

先端医療を先導する情報発信及び 人材育成の支援

未来医学研究会 専務理事
米国ユタ大学薬学部併任教授
BMC36期修了生

江上 美芽
Mime Egami

本未来医学研究会は、バイオメディカル・カリキュラム修了生の集合体であると共に、先端医学、先端医療に関する融合分野研究の進歩・人材教育・世界普及を目指した活動を行い未来医学の実現に貢献する研究会、人材の集団となるべく、平成21年4月に一般社団法人化されました。しかし実際には、本研究会会員(=社員)の会費収入だけでは従来の大会開催や会誌発行を超えた新規活動を実施しにくい状況におかれておりました。

本研究会専務理事として研究会活動への新たな支援者を探すべく、長年家族ぐるみの友人である株式会社アルパートナーズ建築設計代表取締役社長の橋川雄一様(現名誉会員)にも相談していたところ、平成26年に橋川氏の叔母様にあたる柳原操様(故人)御遺産の一部を、本研究会による再生医療研究支援活動に御寄附頂けることとなりました。平成26年からの5年間に亘り、総額2,000万円の「柳原操再生医療研究支援寄附金」を設立して頂き、大会開催や会誌発行の一部助成に加えて、東京女子医科大学先端生命科学研究所において再生医療研究を行う学生・研究者等の活動支援を実行させて頂いております。本誌にお

いて、本研究会会員の皆様に故柳原操様のご紹介および本寄附金によるこれまでの助成活動についてご報告申し上げます。

柳原操様は、大正元年(1912年)川越市生まれ。「スタイル画」のジャンルでは日本の草分け的な存在として長く日本での洋装の普及をリードされたと共に、ドレスメーカー学院(通称ドレメ学院)および杉野女子大学の設立と発展に貢献されました。特に、杉野学園(ドレスメーカー学院および杉野服飾大学)において86歳となるまで教鞭を取られ、若手人材の教育に心血を注がれました。また日本を代表する彫刻家である柳原義達氏と結婚されており、「芸術家はお金のために作品を作ってはいけない」と言う主義のもと、夫の彫刻制作に必要な全ての費用の面倒を見ると共に、佐藤忠良などの高名な芸術家へも長く資金援助を行ったことが知られております。平成25年に101歳で死去されましたが、その祭祀主催者となった橋川雄一様により、下記内容の「柳原操再生医療研究支援寄附金」を本未来医学研究会のために設立して頂いた次第です。この寄附金により、平成

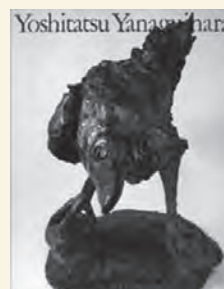
「柳原操再生医療研究支援寄附金」による本研究会支援のご報告

先端医療を先導する情報発信及び人材育成の支援

26年度以降の大会開催や会誌発刊については、会員の皆様が十分に交流し尚、楽しんで頂ける企画案に積極的に取り組むことが可能になりました。また、研究支援については、早稲田大学、東京理科大学、韓国亞州大学、米国ケースウェスタンリザーブ大学、英インペリアルカレッジオブロンドン、スウェーデンカロリンスカ研究所より本学での再生医療等研究に参加した研究者・大学院学生6名および本研究会運営支援1名(別表参照)に対

して、毎月10~20万円程度の活動支援を行っています。橘川雄一様は、先端生命医学研究所の大学院学生を支援するために、本来は大学生を支給対象とする「岡村奨学金」の対象枠を従前より提供して頂いており、未来医学研究会の名誉会員として本研究会理事会及び総会に参加頂き、寄附活動の定例報告に留まらず、様々なご助言を頂き理事、会員と親しく交流頂いております。

故柳原操様のデザイン画及び柳原義達氏彫刻作品の御紹介



一般社団法人未来医学研究会柳原操再生医療研究支援寄附金の概要

- | | |
|---------|---|
| 1. 金額 | 総額2,000万円(一括寄附) |
| 2. 寄附期間 | 5年間(平成26年4月~平成31年3月) |
| 3. 目的 | 一般社団法人未来医学研究会における
①年次大会開催、および年會誌発行支援
同法人母体である東京女子医科大学先端生命医学研究所における
②海外からの再生医療研究者の再生医療研究活動および滞在支援
③大学院学生の再生医療研究活動支援
④本寄附金支給を含む未来医学研究会の運営業務の支援とする。 |
| 3. 寄附者 | 柳原操祭祀主催者 橘川雄一
柳原操遺言執行者 弁護士 小田木 毅 |
| 4. 題名 | 寄附金名に“柳原操再生医療研究支援寄附金”を付す。 |
| 5. 付記 | 祭祀主宰者橘川雄一氏を名誉会員等の役職にて理事会に招聘する。 |

別表 「柳原操再生医療研究支援寄附金」の支援実施対象者：

名前	所属機関(当時)	国	支援期間
葛西 善行	早稲田大学(学生)	日本	平成26年～28年
細井 孝洋	東京理科大学(学生)	日本	平成26年
Kyung Sook Kim	亜州大学(PhD) 現在は米国Utah大学	韓国	平成28年
Erika Cyphert	Case Western Reserve 大学(学生)	米国	平成28年
Alessandra Speidel	Imperial College of London (PhD) 現在はKarolinska Institute	英国	平成28年
Sebastian Sjöqvist	Karolinska Institute(学生)	スウェーデン	平成28年～
雷永満里子	東京女子医科大学 先端生命医科学研究所(運営支援)	日本	平成28年～

本寄附金助成を受けた上記の学生・研究者は、先端生命医科学研究所での研究活動に生活の不安を感じることなく積極的に取組み、それぞれの研究成果について学会発表等を積極的に行うとともに、支援終了後には細胞シート再生医療における本学先端生命医科学研究所の国際連携先である米国ユタ大学、スウェーデンカロリンスカ研究所において、更に研究者としての活動の幅を広げるなどの活躍をされています。本学先端生命医科学研究所で推進する先端医療分野の融合研究活動は、常に志を持つ新たな融合専門人材を世界から集めて育てつつ、先端研究の最前線への参加機会を用意してその研究活動を物心両面で支えることが欠かせません。私自身も、約7年にわたり本学先端生命医科学研究所において、毎年末にサイエンス

MVP賞や国際連携貢献賞など各賞を表彰し、若手研究者や運営支援者の努力を讃える活動を続けてまいりました。こうした息の長い支援や表彰の場を提供することにより、若手研究者のチャレンジ精神や研究をやり抜くモチベーションを高めていくことの必要性を実感しております。

本寄附金は平成31年3月で助成期間終了となります。会員の皆様には、現在の未来医学研究会の諸活動が、皆様の会費や協賛金に加えてこのような寄附や志の高い理事のご厚意に支えられていることを是非ご理解頂きたく存じます。今後の本研究会活動を更に維持発展していくために、それぞれ可能なご支援や御協力を賜りたく、どうぞ宜しくお願い申し上げます。